

## 外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

## 1. 基本情報

令和5年7月1日 現在

団体名 所在地	公益財団法人 會津八一記念館 新潟市中央区万代3丁目1番1号		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 佐藤 明	電話番号	025-282-7612
		ホームページ	<a href="https://aizuyaichi.or.jp/">https://aizuyaichi.or.jp/</a>
市所管課	文化スポーツ部 文化政策課	電子メール	<a href="mailto:info@aizuyaichi.or.jp">info@aizuyaichi.or.jp</a>
基本財産 (基本金)	198,400 千円	設立年月日	昭和47年5月8日 (平成22年12月22日公益財団法人へ移行)
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
その他	88,800 千円	44.8 %	
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名①		會津八一記念館管理運営事業							
事業概要		<p>(概要) 市の財産である會津八一の遺墨や八一と交友関係にあった文化人・作家の作品を保存・管理し、展覧会を通じて県民をはじめとする全国の愛好家に業績を普及する。</p> <p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 名誉市民會津八一の内外に誇るべき書作品を紹介することは、市の文化的財産の豊富なことを認識してもらう手段。文化事業への理解と関心を高める。</p>							
		事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和2年度	令和3年度	令和4年度
公益事業	受託事業	支出額	千円	予算	47,522	40,468	41,087	43,676	
				決算	46,287	40,468	41,928	-	
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
年間入館者数		R5	人	6,000	-	-			
		R4	人	4,500	5,882	3つの企画展ではそれぞれ約1000人、特別展が3000人ほどとコンスタントな入館者数となった。			
		R3	人	4,000	5,586	特別展「會津八一と茶の湯の世界」が3000人を超える盛況で、行動制限がかかる中では健闘した。			
		R2	人	4,000	3,453	感染症発生による行動の変化（自粛）			
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
年間入館料		R5	千円	2,000	-	-			
		R4	千円	1,500	1,973	3つの企画展ではそれぞれ約1000人、特別展が3000人ほどとコンスタントな入館者数となった。			
		R3	千円	1,500	1,817	茶の湯の関係者が多く来館してくれた。			
		R2	千円	1,000	922	感染症拡大による入館者減少			
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
		R5							
		R4							
		R3							
		R2							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		文化的財産である作品等の保管及び管理が適切に行われた。							

## 2. 主要事業

事業名②		展示事業						
事業概要	<p>(概要) 新潟を代表する文人會津八一の作品と業績（短歌、書、美術史、教育）を広く知ってもらうため、八一の遺墨を中心に展示。年一回の特別展ではゆかりの人物や地域に焦点を当て、また3回の企画展では所蔵品を中心に作品を展示。</p>							
	<p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 孤高の生き方を貫き、優れた作品を残した八一の業績を知ること、新潟の文化的土壌の豊かさを再認識し、そのことを誇りとすることができる。</p>							
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	5,191	4,996	5,272	5,635
				決算	3,977	6,621	5,962	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
特別展 (入館者数)	R5	人	3,000	-	-	-		
	R4	人	3,000	2,965	2,965	飛鳥園から借用した高精細なデジタル写真は1点1点サイズが大きかったため展示数が限られる制約もあった。		
	R3	人	3,000	3,041	3,041	裏千家淡交会新潟支部の全面的な支援もあり、2016年以降の入館者3000人を超えた。		
	R2	人	3,000	0	0	実施せず		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
企画展 (入館者数)	R5	人	3,000	-	-	-		
	R4	人	5,000	2,917	2,917	夏から冬にかけてコロナ第7波、第8波が相次いで襲来したが、それぞれ1000人ほどが来館。		
	R3	人	5,000	2,545	2,545	コロナ感染防止対策で9月に16日間休館を余儀なくされ、県外からの来館者は大幅に減少した。		
	R2	人	5,000	3,453	3,453	コロナ感染症の発生と、その拡大懸念による自粛・休館等。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R4							
	R3							
	R2							
	R1							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		所管課として広報等で市民への周知を行った。コロナ禍にも関わらず多くの方が来館し、會津八一の業績や作品を広めることができた。						

2. 主要事業

事業名③		文芸講演会事業						
事業概要	(概要) 4回の展示に関連してその分野の研究者・専門家を招き、テーマに関連した内容を語ってもらう。そのことにより県民市民が教養を高める一助とする。							
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 市の文化事業への関心を高め、文化的土壌を育むとともに文化・歴史に対する市民の誇りを高める。専門家の話を聞くことで市民の文化的教養が深まり、市の文化的厚み（文化度）が高まる要因となる。							
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	1,320	1,320	1,320	1,320
				決算	82	471	1,172	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
開催数	R5	件	9	-	-			
	R4	件	9	9	9	企画展、特別展ごとの講演会5回のほか、館長自ら講師を務める館長講座を4回開催した。		
	R3	件	6	9	9	企画展ごとの講演会のほか、館長自ら講師を務める6回連続の館長講座を開催した。		
	R2	件	3	2	2	感染症の広がりでの中止		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
聴講者数	R5	人	800	-	-			
	R4	人	600	835	835	館長講座はコロナ感性防止のため120席に絞ったこともあり、補助いすをだすこともあり盛況だった。		
	R3	人	600	801	801	上記の通り、6回の館長講座が好評だったことに加え、企画展講演会の講師の集客力も高く多くの聴講者を集めることができた。		
	R2	人	500	177	177	開催中止の影響		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R5							
	R4							
	R3							
	R2							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		所管課として広報等で市民への周知を行った。 多くの方の関心を集めた講演会を企画し、市民の文化的教養の向上や深化につなげることができた。						

2. 主要事業

事業名④		販売事業						
事業概要		<p>(概要) 特別展図録、自主開発した商品、関連書籍、往復書簡集（會津八一のやりとりした書簡の活字起こし）の制作販売。</p> <p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 所蔵作品・資料を、展示とは別の形態（書籍、図録、商品デザイン）で活用することは、文化的財産への関心を別の角度（購入・読書）から高めることにつながり、市の文化事業理解へとつながる。</p>						
		事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和2年度	令和3年度
公益事業	自主事業	収入額	千円	予算	3,000	3,000	3,000	3,000
				決算	1,585	1,750	2,175	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
販売事業		R5	千円	2,000	-	-		
		R4	千円	2,000	1,466	来館者は増加したものの、新刊もなく伸び悩んだ。		
		R3	千円	2,000	1,114	會津八一生誕140年を記念して発刊した「名品50選 獨往の書」は好評だったが、来館者の伸び悩みで今一步。		
		R2	千円	2,000	940	感染症発生に伴う人の動きの減少、それによる入館者の減少。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
鑑定事業		R5	千円	1,000	-	-		
		R4	千円	1,000	709	出品数は頭打ちだが、認定率が昨年を上回った		
		R3	千円	1,000	636	依頼数が少ないうえに、鑑定会の認定率が低く、鑑定料、認定料ともに低迷した。		
		R2	千円	1,000	645	感染症の発生に伴い、年2回の開催を1回に減らしたため。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
		R5						
		R4						
		R3						
		R2						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		市民を始めとした多くの方々の文化的財産への関心向上に貢献した。						

2. 主要事業

事業名⑤		普及活動事業						
事業概要		<p>(概要) 會津八一の業績のうち短歌について、そのイメージを写真で表現することを呼びかける。そのことによって写真分野で活動する人たちにも八一の世界をしてもらい、もって八一の業績の広まりと認知度アップを図る。また職員が館外で講演することにより、来館したことのない人からも會津八一に関心を持ってもらい、業績を認知してもらう。</p> <p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 市の文化事業の厚み、多彩さを印象付ける。また専門学芸員を擁すること、その知識経験を館外で発揮するというのも、市の文化的土壌の豊かさを認知してもらう契機となる。</p>						
		事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和2年度	令和3年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	2,650	2,650	2,650	3,000
				決算	1,956	1,867	3,022	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数		R5	点	190	-	-		
		R4	点	180	184	16回目を迎え、写真愛好家には定着していると浅井慎平委員長から評価いただいた。		
		R3	点	170	175	写真家の浅井慎平さんが審査員であり、15回続いたことで定着。撮影技術の向上していると評価された。		
		R2	点	150	165	さらに認知度が深まり、写真発表への意欲を刺激した。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
館長・学芸員の出前講演会、講座回数		R5	回	7	-	-		
		R4	回	8	6	要請を恒例化している団体もある。		
		R3	回	7	6	コロナの感染拡大防止のため要請自粛もあったが、高齢者や小中学校、高校書道コースで実施できた。		
		R2	回	3	6	幸い公民館・学校からの要請があった。要請を恒例化してくれている団体もある。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
		R5						
		R4						
		R3						
		R2						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		写真コンテストについては、目標を上回る応募件数となり着実に定着している。出前講演会等については、コロナ禍の下ではあったが、會津八一の認知度向上に取り組んだ。						

## 3. 組織等の状況

## (1) 役職員数の状況

令和5年7月1日 現在 (単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
役員数	11	11	11	11
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員OB				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	11	11	11	11
市兼任	3	3	3	3
市職員OB				
他団体兼任	8	8	8	8
その他				
職員数	3	3	3	3
常勤	2	2	3	3
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	2	2	3	3
他団体からの派遣				
非常勤	1	1	0	0
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	1	1		
見直し等の取組み				

## (2) 職員の状況 (市派遣職員を除く。)

令和5年7月1日 現在 (単位:人)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
職員の状況	管理職				
	一般職	3	3	3	3
	合計	3	3	3	3
年齢構成	20代以下				
	30代	1			
	40代	1	2	3	3
	50代				
	60代以上	1	1		
	合計	3	3	3	3

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(予算)
報酬・給与等	18,791	19,089	19,526	20,620
内 市職員分	0	0	0	0
役員	5,541	5,400	5,400	5,400
常勤				
内 市職員分				
非常勤	5,541	5,400	5,400	5,400
内 市職員分				
職員	13,250	13,689	14,126	15,220
常勤	10,624	10,990	14,126	15,220
内 市職員分				
非常勤	2,626	2,699		
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員				
常勤職員	5,312	5,495	4,709	6,562
見直し等の取り組み				

(4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系		有 予定時期 年度～
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他 [ ]		その他 [ ]

## 4. 財務の状況

## (1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般正味財産増減の部	経常収益	50,085	45,629	47,263
	基本財産運用益	3,184	3,184	3,210
	特定資産運用益	1		
	受取会費			
	事業収益	44,119	39,720	41,371
	自主事業収益	2,040	2,931	3,255
	受託事業収益	42,079	36,789	38,116
	受取補助金等・負担金			
	その他経常収益	2,781	2,725	2,682
	経常費用	49,159	45,466	50,151
	事業費	48,300	44,784	48,970
	公益目的事業費	40,306	37,818	41,066
	収益目的事業費	2,555	1,992	2,399
	(自主事業費)			
	(受託事業費)			
	法人会計	5,439	4,974	5,505
	管理費	859	682	1,181
	評価損益等調整前当期経常増減額	926	163	▲ 2,888
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
当期経常増減額	926	163	▲ 2,888	
経常外収益				
経常外費用	70	70	70	
当期経常外増減額	▲ 70	▲ 70	▲ 70	
当期一般正味財産増減額	856	93	▲ 2,958	
一般正味財産期首残高	35,373	36,229	36,321	
一般正味財産期末残高	36,229	36,322	33,363	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金			
	その他	▲ 147	▲ 147	▲ 147
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	147	147	147
	当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高	201,724	201,724	201,724	
指定正味財産期末残高	201,724	201,724	201,724	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
基金期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高		237,953	238,046	235,087

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	24,342	19,965	24,065
役員分	6,941	5,937	6,795
職員分	17,401	14,028	17,270

## (2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
資産の部	資産の部合計	259,987	256,938	253,521
	流動資産	18,661	15,101	11,906
	現金預金	8,558	3,442	1,101
	未収金			
	有価証券			
	その他流動資産	10,103	11,659	10,805
	固定資産	241,326	241,837	241,615
	基本財産	200,549	200,402	200,255
	特定資産	33,068	32,894	31,895
	その他固定資産	7,709	8,541	9,465
	有形固定資産	6,703	7,339	7,703
	無形固定資産	1,006	1,202	1,762
	その他投資等			
負債の部	負債の部合計	22,034	18,893	18,434
	流動負債	9,061	4,594	2,732
	短期借入金			
	その他流動負債	9,061	4,594	2,732
	固定負債	12,973	14,299	15,702
	長期借入金			
その他固定負債	12,973	14,299	15,702	
正味財産の部	正味財産の部合計	237,953	238,045	235,087
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	201,724	201,724	201,724
	うち補助金	201,724	201,724	201,724
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	36,229	36,321	33,363
	代替基金			
その他一般正味財産	36,229	36,321	33,363	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計		259,987	256,938	253,521

## (3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
市財政支出等の合計	46,367	40,548	41,008
補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	46,287	40,468	40,928
指定管理料（公募）			
指定管理料（非公募）	46,287	40,468	40,928
業務委託（随意契約）			
業務委託（その他）			
貸付金（期中借入額）			
出資・出捐金（追加額）			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

## (市財政支出等がある場合) 目的、内容、必要性、増減理由等

内容はほぼ100%事業委託料(指定管理料)で、年4回の展示費用や施設管理費、人件費など。目的は新潟市名誉市民會津八一の業績の顕彰と普及活動推進、そしてその活動拠点である記念館施設の維持・管理のため。

## (4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
純資産	237,953	238,045	235,087
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲	▲	▲
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
拋出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	237,953	238,045	235,087

5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

（1）財務の健全性

指標		令和2年度	令和3年度	令和4年度
経常損益		926 千円	163 千円	▲ 2,888 千円
自己資本比率	純資産	91.5 %	92.6 %	92.7 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	205.9 %	328.7 %	435.8 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	96.2 %	95.8 %	96.3 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産	39,553 千円	39,645 千円	36,687 千円
	－資本金（基本金）			
公益目的事業比率	公益目的事業費	92.2 %	93.4 %	92.0 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	0.17	0.16	0.17
	遊休財産額			
資金運用				
基本財産としての 有価証券の保有	● 有	→	① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。 ② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。 ③ 資金運用に関する情報収集に努めている。 ④ 元本割れのリスクはない。	○
	○ 無			○

（2）団体の自立性

指標		令和2年度	令和3年度	令和4年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	92.6 %	88.9 %	86.8 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

（3）経営の効率性

指標		令和2年度	令和3年度	令和4年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	14,706 千円	13,240 千円	13,790 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	309 千円	54 千円	▲ 963 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	1.7 %	1.5 %	2.4 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	286 千円	227 千円	394 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	48.6 %	43.8 %	50.9 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	28.5 %	29.7 %	28.2 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況	
●	有 計画名称 { 會津八一没後70年に向けて/存在意義を広め、存在価値を高める一生活様式変化の中で } 計画期間 令和2年度～令和6年度
概要・数値目標	
<p>令和5年5月、新型コロナウイルスの感染法上の位置づけがインフルエンザ並みに緩和されたこともあり、世間一般の人出はコロナ禍前に戻りつつある。美術館にとってもありがたいことだが、このことが直接来館者増につながるわけではない。展示内容にもよるとは思うが、実際、春の企画展「八一を知る 八一がわかる」の入館者数は昨年同時期の「獨往の書 漢字・かな編」とほぼ同じ約1000人だった。現在開催中の夏の企画展「北方文化博物館と會津八一」も記録的な暑さにも影響され、特段出足が際立ってよいと実感できる水準ではない。しかし、今後は緩やかに収束に向かうとの見方が一般的であり、当記念館の努力次第では、中期構想で掲げた令和8年までにコロナ以前の年間7000人の目標達成は可能だと認識している。會津八一を顕彰する施設として、知名度を上げる活動を地道にかつ不断に継続し、會津八一が新潟市民にとって、身近で誰もが知る、誇らしい名誉市民であることを認識してもらいたい。</p> <p>&lt;入館者&gt;入館者は令和2年度3500人、3年度5500人、4年度が5900人ほどとなっている。コロナ第7波、8波に襲われたものの、昨年は3回の企画展がそれぞれ1000人、特別展「仏像の美」は3000人の入館者があり、年間6000人弱となった。野中館長も自ら作品の鑑賞会を開催したり、連続講座を開講し、固定ファンづくりに大きく貢献した。令和5年度は若い世代への浸透を図るため、初めて市内高校8校による「拓本大会」を開催。奈良の世界的な石工・左野勝司さんが八一の書画を忠実に刻んだ石版を使用し、身近に八一作品を鑑賞しながら、拓本という新しいジャンルに挑戦してもらった。参加者からは好意的な評価が多く寄せられており、今後、八一への関心をより一層深めてもらい、友人や家族を連れだって来館してくれることを願っている。また、中高生へのアプローチを重視し、出前授業で「学規」など、子供たちにも親しみやすい八一の作品を活用して来館に結びつけたい。</p> <p>&lt;図録と在庫&gt;毎年特別展の際に作成している図録の在庫削減が課題となっている。在庫図録を有効に活用してもらうため、在庫数の多い図録を年間4回の館長講座すべてを聴講する方のみ無料で配布するとPRしたところ、定員の7割ほどの申し込みがあり、単なる”不良在庫”ではなく、インセンティブになることを確認した。今後も価値のある「記録」「資料」として、會津八一および記念館をアピールのため、有効な資産として活用方法を検討していく。また、八一の書簡をまとめた「雁魚来往」は昨年度末、第10集を発刊したことから、これを区切り休刊することとした。</p> <p>&lt;普及&gt;普及材としては、奈良の中宮寺で八一が詠んだ「みほとけの…」の短歌と菩薩半跏像を組み合わせたクリアファイルの在庫が減り、同寺からの注文に応じられないため増刷した。</p>	
●	無 未策定理由 { }

② 経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
●	有 就任時期 年度～ 依頼先職種 { }	●	有 依頼時期 平成18年度～ 依頼先職種 { 税理事務所 }
●	無	●	無

③ 事務処理改善の取組み	
●	有 取組内容 平成29年度～
●	無 { 法人税等はダイレクト納付を利用し、労働保険料支払いは口座振替引き落としにして直接銀行窓口へ行く回数を削減した。 }

④ 人材育成の取組み	
●	有 取組内容 平成17年度～
●	無 { 市や民間の生涯学習事業（市政トーク便りなど）や小中高大学の講師を積極的に引き受けることで、知識の整理と深化につなげ、若年層への知名度アップも図っている。隣接の文化の記憶館と連携し、顕彰人物に関してだけでなく、関連人物や周辺情報についても幅広い知識を共有、習得している。それらが、會津八一の業績普及にも貢献している。また上部団体の研修会にもできる限り参加し、県外博物館の見学で「見せ方」「企画の仕方」を学び、学術誌や他館からの依頼に応え原稿を寄せている。そのほか新聞への寄稿は、簡潔に展示内容を紹介する文章作りの機会ととらえ、展示ごとに掲載をお願いしている。 }

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況					
●	有 策定期間 平成12年度～	団体ホームページ掲載	●	定款等	21年度～
●	有 規定名称 { 公益財団法人會津八一記念館情報公開規定 }		●	事業内容	21年度～
●	有		●	役員名簿	21年度～
●	有		●	役員報酬	年度～
●	無 未整備理由 { }		●	事業報告	21年度～
●	無 役員は無報酬		●	正味財産増減計算書	21年度～
●	無		●	貸借対照表	21年度～
●	無		●	事業計画書	21年度～
●	無		●	予算概要	21年度～

改善対応区分  
 A: 改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)  
 B: 改善の取組の効果が始まっている  
 C: 改善の取組に着手  
 D: 改善の取組に向けて検討中  
 E: 今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項		後継者の育成・増員を検討しなければならない。					
改善のために取り組んだ内容		隣接する「文化の記憶館」との一体的運営を検討					
取り組みによる成果		一体的運用による効率化メリットを模索しているが、現実的には難しく、協議半ば。					
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	計画	組織の内容を決定	あるべき組織を再検討	現組織体制の検証	現組織体制の検証		
	実績	検討中	検討中	検討中			
	進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 組織運営の在り方を含め協議中。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 増員が可能かの検討。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 一体的運営による効率化メリットを実現できる見通しがついた段階で、財政的な裏付けが担保できるか協議する。					

改善指示事項		引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。						
改善のために取り組んだ内容		展示会やイベントごとに、アンケート結果なども参考にしながら、細かな展示方法や展示点数などについて反省し、次回の企画立案に反映している。来館に結びつくよう関心のもてる企画、多くの人の目を引き付ける展示、講演会などを開催した。						
取組みによる成果		令和4年度の年間入館者数は5,882人と昨年度を300人ほど上回った。						
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E	
改善に向けた取組み 評価指標	実施事項	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度			
	写真コンテスト	計画	応募170点	応募180点	応募190点	応募200点		
		実績	応募175点	応募184点				
	進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和4年度で16回目を迎え、全国17都道府県から昨年を上回る応募があり、写真愛好家には定着してきていると浅井慎平委員長からも評価をいただいた。						
	今後の課題	【取組み状況を踏まえた今後の課題】 応募者の多くが浅井慎平さんの審査を受けることに期待していると思われるが、先生も80歳を超えたため、今後の方向性を決める時期に来ている。また會津八一の歌を写すという基本概念に適切に対応できる写真家の発掘は難しい。						
	課題への対応	【今後の課題への対応】 浅井先生の負担にならないよう、後任の写真家を探さなければならない。先生にも助言を受けながら八一の歌を理解してくれる写真家を探す。						
	その他	計画	八一祭トークイベント、館長講座	八一祭トークイベント、館長講座	八一祭トークイベント、	八一祭トークイベント、		
		実績	いずれも実施	いずれも実施	10月実施予定			
		進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和4年の八一祭トークイベントでは、企画展「獨往の書～手紙編～」に合わせ、壇上で俳優の松村雄基さんと角田勝久新潟大学准教授が互いに宛てた手紙を揮毫してもらった。また松村さんには八一が若い芸術家に宛てた長文の“お説教状”を朗読してもらったところ大好評だった。					
		今後の課題	【取組み状況を踏まえた今後の課題】 新潟市が生んだ文人・會津八一の知名度を上げるため、引き続き中高生など若い世代へアピールできる施策を検討する。					
課題への対応		【今後の課題への対応】 令和5年度の八一祭では、地元高校生に會津八一を知ってもらうため、世界的な石工・佐野勝司氏制作の石版を用いて拓本大会を実施した。引き続き市内の中学校を対象に出前授業を検討する。						

改善指示事項		中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。					
改善のために取り組んだ内容		中学生や高齢者への普及活動はビジョンの方向性に沿ったものと認識している。また奈良の寺院との交流や、写真コンテストの巡回展を東京、京都、奈良、香川など八一とゆかりのある地域で開催することで、国内都市間の文化交流推進というビジョンにも合致していると考えている。					
取り組みによる成果		小中高生の出前講座は、小学校1校、高校1校にとどまり、学校単位の来館者は13校227人（小学校2校、中学校9校、高校1校、大学1校）となった。このほか、高齢者大学などの聴講者は170人だった。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度
	計画	140年記念事業実施と没後70年事業の検討		名品50選刊行記念展の開催		創立50年、没後70年事業の検討	創立50年、没後70年事業の検討
	実績	名品図録などを発行		2回の企画展で紹介		調査検討中	
	進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和4年度は生誕140年を記念した「名品50選」刊行後、「漢字・かな編」と「手紙編」に分け、2回にわたって掲載作品を紹介した。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 開館50周年については、他の市立あるいは指定管理者が管理運営する美術館などの事例を聞きながら、どのような組み立てにするか検討を進めている。没後70年は企画展、特別展の中で取り上げていく予定。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 生前の業績を改めて検証するとともに、没後に再評価されたことも含め、會津八一の残した功績を一般市民に再認識してもらえよう事業展開を考えたい。創立50周年に向けてはこれまでの記念館の歩みと會津八一顕彰活動も振り返りながら、今後の事業展開についての方向性も示したい。					

改善指示事項		各種イベントの実施を通じて増収に結びつけたが、赤字である。赤字の解消に取り組むべきである。					
改善のために取り組んだ内容		執務室で利用している複合機の契約見直しを12月に行った。カラー、モノクロとも1枚当たりの印刷単価を引き下げ、毎月の使用料も削減できた。					
取り組みによる成果		電気料金高騰による支出超過が赤字全体の約9割を占めた。上記複合機の契約見直しや特別展図録以外の新刊を発行せず、支出を抑えたが、電気料以外に30万円ほどの赤字となった。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和3年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	出版	計画	歌碑写真集県内版、収蔵作品集	書簡集「雁魚来往」第10号制作	書簡集「雁魚来往」第11号制作	未定	
		実績	會津八一の歌碑 新潟編を発行	第10号発刊	第10号を節目に休刊		
	進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和3年度末には「名品50選」、「會津八一の碑 新潟編」、會津八一の書簡集「雁魚来往」は第10集を発刊。令和4年度初めには「會津八一の歌碑 奈良・京都編」が完売となったため、第4刷を発行。「雁魚来往」は研究者や図書館などへの寄贈がほとんどのため、当面休刊することとした。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 奈良、新潟県内にある會津八一の歌碑を市民にも認知してもらおう。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 令和4年に実施した新潟市内の歌碑巡りは好評だったため、5年度も実施予定。					
	発信活動	計画	CM、新聞広告	テレビCM、新聞広告	テレビCM、新聞広告	テレビCM、新聞広告	
		実績	企画展は新聞、特別展はCMも	企画展は新聞、特別展はCMも			
		進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 計画通りテレビCMと新聞広告によるPRは実施している。またホームページでも展示会の案内のほか、講演会の応募締め切りなど急ぎの情報は適宜掲載している。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 これまで通り高齢者に訴求力のある新聞広告、テレビCMなどは継続していく。さまざまな電子メディアについてはアンケート結果なども踏まえ、費用対効果の観点から検討する。				
課題への対応	【今後の課題への対応】 FACEBOOKやX（旧Twitter）の利用を模索している。						

改善指示事項		今後どのような展示を希望するか、より多くのニーズを把握するため、アンケート調査の回収率を上げる等、有効なアンケート調査となるよう工夫が必要である。					
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	来館者向けアンケートに回答してくれた方に漏れなく絵ハガキをプレゼントし、さらに展示作品をよく見ないとわからないクイズを実施、応募いただいた方には抽選で関連グッズを贈っている。					
	取り組みによる成果	回収率は目標を若干下回った。					
	改善・対応区分	A	B	●	C	D	E
	実施事項	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	アンケートの回収率向上	計画 回収率9%	実績 9.60%	計画 回収率9%	実績 8.50%	計画 回収率9%	実績 回収率9%
	進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 目標の数値にはわずかに及ばなかった。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 10%近由来館者がアンケートに回答してくれている現状は、かなり高い水準にあると認識しており、維持できるよう工夫する。これに加え、各講演会でもアンケートを実施、ここで指摘された展示関連の意見も参考にしている。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 これまで通り、回答者向け絵ハガキやグッズのプレゼントを継続し、回答を促すような掲示を施す。					

改善指示事項		在庫整理を適切に進めるため、不良在庫に対する評価基準の明確化や、評価の切り下げ等、適切な会計処理を行う必要がある。					
改善のために取り組んだ内容		当館発行の書籍や色紙などは「不良在庫」ではないとの認識のもと、在庫部数の多い図録を有効活用するため、館長講座全4回すべてに参加する関心の高い方にプレゼントするというインセンティブとして活用した。					
取り組みによる成果		館長講座の定員120人の7割ほどが申し込んでくれた。このほか、令和4年度の「八一祭」では季節に合わせ、参加者全員に八一の書入り団扇150本を進呈し、喜ばれた。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	計画	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増		
	実績	1,114千円 (18.5%増)	1,466千円 (31.6%増)				
	進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 コロナ禍による来館者半減からの回復途上であり、目標は達成できた。今後も着実に目標達成を継続していく。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 令和4年度から5年度については、特別展の図録以外に新たな書籍やグッズを制作していない。興味、関心を持ってもらえる新商品の開発が進んでいない。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 販売実績は来館者数に大きな影響を受けるが、講演会などのイベントでも関連する書籍やグッズの販売を継続する。一方で新商品開発を検討する。					
	計画	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減		
	実績	11,570千円 (16%増)	10,729千円 (7.3%減)				
	進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 館長講座参加者募集のインセンティブや八一祭で参加者プレゼントを実施したこと、販売実績が前年比で増加したため、在庫も一定源削減できた。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 在庫を有効に活用しながら整理を進めること。					
課題への対応	【今後の課題への対応】 今後も各種イベントへの参加を促すような活用法で在庫整理を進め、関心の高い層に届く、有効なリピーター増加対策にもつなげる。						

改善指示事項		中長期計画を補うものとして、事後的な評価ができるよう、客観的な成果指標を設定することが必要である。					
改善のために取り組んだ内容		図録や色紙などは文化的価値のある資料であると認識しており、講演会などのイベント参加者やリピーター増を目標に在庫整理を行っている。来館者数はこの評価調書で毎年設定している。					
取り組みによる成果		既に記載した通り、図録進呈をアピールしたところ、館長講座全4回をすべて受講する方が全体の約7割を占めた。八一祭では団扇を参加者全員150人ほどに配布した。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
改善に向けた取り組み	市内中学校来館校数	実施事項	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
		計画	訪問5校来館10校	訪問5校 来館10校	訪問5校 来館10校	訪問5校 来館10校	
		実績	訪問1校 来館7校	訪問0校 来館9校			
		進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 市内中学校からの来館者は9校173人となった。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 新潟市内には61の中学校があるようだが、令和4年度に来館したのは9校にとどまっている。五十嵐中学校は122人とまとまって来館してくれたが、残る8校の合計来館者数は51人と少数にとどまっている。こうした状況を改善するため、もっと記念館を利用してもらえるよう中学校側に来館を促したい。				
	課題への対応	【今後の課題への対応】 市内の中学校であれば事前の入館料免除申請を提出すれば無料で見学できることさえ、学校側に浸透していないと思われる。できれば校長会の会長や担当者にこうした制度も伝え、名誉市民・會津八一の業績や人となりを学ぶ機会を与えてもらえるようお願いしたい。					
	認知度向上（情報入手方法「新聞」の割合増加＝アンケート回答）	計画	25%	30%	30%	30%	
		実績	27%	25%			
		進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和4年度は目標をやや下回った。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 新聞とチラシ、ポスターで約6割、放送、市報、ホームページを合わせて2割強。全体の2割ほどが無回答。				
課題への対応		【今後の課題への対応】 無回答を除けば、新聞、チラシ・ポスター、市報の紙媒体で8割以上を占めるため、こうした媒体中心にアピールし、認知度向上に努める。					

改善指示事項		特別展や企画展といった展示事業は、関係各所に引き続き協力を仰いでいく必要がある。					
改善のために取り組んだ内容		必要に応じて外部機関や個人に協力を求め、賛同いただいたうえで展示に反映させている。講演会も毎回外部講師を招いている。また普及活動に協力してもらえらる企業、団体を求めている。					
取り組みによる成果		当館にはない作品は借用し、普段目にするのことができないものをお見せしている。わずかだが協力してくれる企業も発掘できた。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	所管課からの助言も受けて、展示内容を検討し、普及活動に賛同してもらえらる企業、団体、教育機関との連携強化を図る。	計画	-	法隆寺管長講演会	新規協力企業獲得	未定	
		実績		満席			
	進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 アンケート結果を見ても、展示内容について高い評価をいただいている。写真コンテストは奈良・斑鳩町、新宿・中村屋、京都・三千院、高松・八栗寺などの協力を得て巡回展を開催している。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 普及活動に賛同してくれる企業、団体の発掘は難しい。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 今後も必要に応じて、外部機関の協力を求め、展示を充実させる。					

改善指示事項		在庫管理を適切に進めるため、不良在庫に対する考え方・評価基準を所管課と協議を進めながら明確にし、適切な会計処理を行う必要がある。					
改善のために取り組んだ内容		当館発行の書籍や色紙などは「不良在庫」ではないとの認識のもと、在庫部数の多い図録を有効活用するため、館長講座全4回すべてに参加する関心の高い方にプレゼントするというインセンティブとして活用した。					
取り組みによる成果		館長講座の定員120人の7割ほどが申し込んでくれた。このほか、令和4年度の「八一祭」では季節に合わせ、参加者全員に八一の書入り団扇150本を進呈し、喜ばれた。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	図録やグッズの在庫管理を適切な会計処理によって進める。	計画	-	八一祭出席でグッズ進呈	全講座出席で図録進呈	未定	
		実績		158名	78冊		
	進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 館長講座参加者募集のインセンティブや八一祭で参加者プレゼントを実施したこと、販売実績が前年比で増加したため、在庫も一定源削減できた。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 在庫を有効に活用しながら整理を進めること。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 今後も各種イベントへの参加を促すような活用法で在庫整理を進め、関心の高い層に届く、有効なリピーター増加対策にもつなげる。					

改善対応区分  
 A: 改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)  
 B: 改善の取組の効果が始まっている  
 C: 改善の取組に着手  
 D: 改善の取組に向けて検討中  
 E: 今は実施せず今後の課題とする

(2) 【その他改善を要する事項】の改善状況

今後改善を要する事項		展示室が1室である。(廊下にも展示できるが) 1室というのは内容は別として「ここだけ?」の感を抱かれる。なんとかボリュームを出したい。					
改善のために取り組んだ内容		現状では展示スペースの拡張はできない。四方の壁面のほかに中央にも展示ケースを設け、展示作品数を増やすよう努めている。また廊下に隣接したビデオルームでも八一をわかりやすく紹介するビデオのほか、作品展示も行っている。					
取り組みによる成果		アンケートで展示作品数が「少ない」と回答した人は12%だったが、「適当」との回答が86%を占めていることから、大半の方々は最低限満足していただいていると認識している。展示スペースを拡張できない現状で、小さな作品ばかり多く展示することは迫力を失い、逆に批判を浴びることになりかねない。					
改善・対応区分			B	●	C	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	計画	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示		
	実績	達成	達成				
	進捗状況	【令和4年度までの達成状況及び今後の見込み】 次年度の展示会テーマ設定は前年の10月にほぼ決めている。担当学芸員が開催までに十分な時間をかけ、調査研究を進めている。毎回の展示に期待し、複数回足を運んでくれる方も数多くいらっしゃる。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 今後とも来館者の期待を裏切ることなく、質量ともに満足していただける企画を立案すること。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 現状の展示でも十分評価できるが、学芸員が日ごろの研究の中から新たな発見をしたり、知見をさらに掘り下げたりすることで、さらに評価を上げる。					

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

<b>財務の健全性</b>	令和4年度は電気料金の高騰により、赤字を計上したが、それ以前はわずかだが黒字を確保してきた。収益事業で黒字を確保し、公益目的事業の赤字を埋める体質に改善しなければならないことは認識している。
<b>団体の自立性</b>	市からの財政支出のほか、地元新聞社、テレビ局、美術振興団体から寄附を受け、それらの機関、団体に役員や運営委員等を委嘱しているが、これらの機関からは独立して年3回の企画展、1回の特別展は2人の学芸員を中心に館長が監修して開催している。また関連講演会や写真コンテスト、八一祭などのイベントも外部からの支援を受けることなく実施している。
<b>経営の効率性・適正性</b>	常勤職員は事務長1人、学芸員2人、事務職員1人の4人。非常勤の館長を含めて5人の構成。年3回の企画展、1回の特別展、各種講演会、写真コンテスト、八一祭などのイベントを運営し、毎週月曜日の休館日以外は開館している。効率的で適正だと認識している。
<b>その他</b>	

【新たに改善を要する事項】 ※「6. 経営改善状況」に記載のもの以外で改善を要する事項を記載

今後改善を要する事項					
評価指標	実施事項	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	計画				
	実績				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】			
	課題への対応	【今後の課題への対応】			

【団体による総括的な評価】

年間入館者数は昨年を300人ほど上回る5900人弱となり、目標達成の足掛かりとなった。3回の企画展はそれぞれ1000人、特別展は3000人とコンスタントな集客となった。 市内にある八一の歌碑を歩いてめぐる「いしぶみ散歩」は少人数ながら好評で、新たな顕彰スタイルとなった。 16回目を迎えた「秋艸道人賞写真コンテスト」は毎年少しずつ出品数が増え、写真愛好家の間で定着していると浅井慎平審査委員長からも評価いただいた。
---

【所管課による評価】

令和4年度は前年度同様にコロナ禍での運営ではあったが、入館者数は徐々に回復している。文芸講演会や館長の連続講座は人気を博しており、広報活動も精力的に行っているため評価できる。校外学習の受け入れ件数は目標を下回っているため、若い世代に八一を伝えるために、一層努めてほしい。令和4年度より物価高騰により施設運営が非常に厳しい状況となっている。今後も物価高騰が見込まれるなかで、経費の削減に努めてほしい。
---